

[様式14]

(対象事業：2. ミュージアムを核とした地域文化資源の整備・活用に関わる事業)

事業名：「軒の山吹」の行事の紹介と再現－江戸の紀行家菅江真澄の記録から－

事業者名：秋田県立博物館

連携事業館名：

住所：秋田県秋田市金足嶋崎字後山52

TEL：018-873-4121

FAX：018-873-4123

HPアドレス：<http://homepage3.nifty.com/akitamus/>



### ①施設概要

秋田県立博物館は、考古・歴史・民俗・工芸・生物・地質の6部門からなる総合博物館として、昭和50年に開館した。各部門の研究の総合化と郷土学（秋田学）の体系化をめざすことを基盤として、その成果を展示や普及活動に生かすべく取り組んできた。平成8年に「菅江真澄資料センター」・「秋田の先覚記念室」を併設し、さらに平成16年4月29日にリニューアルオープンした。

### ②事業の意図目的

江戸時代の紀行家・菅江真澄の著『軒の山吹』に記されている当館の所在地である秋田市金足地区の風習を手がかりに、地域の学校・関係機関と連携して、地域の歴史・文化を掘り起こし、それを地域に発信していくものである。その結果として地域の歴史・文化の継承につとめるとともに、博物館がより地域に開かれ、より人々に親しまれる、魅力あふれる場となることを目指すものである。

### ③事業概要

地域の歴史と文化の掘り起こしと継承、さらに新たな地域文化創造のきっかけとするためと、地域の学校や地域住民との連携を深めるために次の事業を展開した。

①「軒の山吹」にかかる習俗等の調査と普及事業

（リーフレット・すごろく・事業告知板の作成、講演会の実施）

②博物館と周辺地域機関との連携事業（CD作成、音楽発表会・絵画展の実施）

### ④事業の製作物及び報告書等

事業の製作物 テキスト ワークシート その他（事業告知看板）

作成した報告書等

ビデオ（）

冊子（報告書）

その他（すごろく、リーフレット、CD）

### ⑤参加者状況

| 参加者人数 |       | 延べ     | 3,769人 |
|-------|-------|--------|--------|
| 内 訳   | 写生会   | 35名    |        |
|       | 音楽発表会 | 80名    |        |
|       | 講演会   | 45名    |        |
|       | 絵画展   | 3,609名 |        |

※絵画展の見学者は、当館の常設展入館者数と同数。

## (1) 事業の実施状況について

- ①「軒の山吹」にかかる習俗等の調査と普及事業  
(リーフレット・すごろく・事業告知板の作成、講演会の実施)

### <全体のコンセプト>

- 秋田市金足地区の歴史・文化の掘り起こしと継承のキーワードとして、「菅江真澄」・「軒の山吹」・「かなせの里」を用いて当事業を周知させる。
- 対象は、小学生から大人までとし、見るだけで印象に残り面白いものであること。
- 制作物は、今後も繰り返し使用し、普及だけでなく小・中学校の学習にも活用できるものであること。
- 制作物はすべて共通のデザインを用い、統一感を持たせる(②のCDも共通)。
- 講演会は、地域文化の掘り起こしと新たな文化創造への提言となるものにする。

### <作成物全体の概況>

博物館周辺の小中学校(秋田市立金足西小学校、秋田市立金足東小学校、秋田市立下新城小学校、秋田市立秋田北中学校)の教師・地域の関係機関の方から助言をいただきやすいよう専門部会を組織し、そこでの話し合いをもとに作成に当たった。

「菅江真澄」・「軒の山吹」・「かなせの里」を連想しやすくかつ親しみを持ちやすくするために、菅江真澄の新キャラクターを業者にデザインしてもらい、さらに普及資料を統一感のあるデザインになるように業者と打ち合わせをした。

### <リーフレットの作成>

当事業を地域の方をはじめとする一般来館者に理解していただくための普及的側面と、金足地区の中で今でも山吹を確認できる地点を地図上にドットで落とした「山吹分布マップ」として使用できる側面を合わせ持つリーフレットになるように留意して作成した。

### <すごろくの作成>

小・中学生にも分かりやすく親しみやすいものであること、なおかつ地域の歴史・文化の学習教材にもなりえるようなデザインと構成とすることを専門部会から要望された。それをふまえて試作品をつくり、小・中学生にモニタリングしてもらい、その結果をもとに再度検討して完成に至った。

### <事業告知板の作成>

菅江真澄の図絵を前面に押し出して、視覚に訴えられるものになるようにという委員からの提言を受け、真澄が描いた「金足岩瀬」の図絵を出来るかぎり大きく配置し、真澄が記録し描いた「山吹の里」金足の絵だけでも看板を見た人の印象に残ってもらえたらというねらいのもとにデザイン・構成を行い、作成した。

### <講演会の開催>

東京学芸大学教授・遠野市立博物館長の石井正己氏を講師に招き、講師自らが館長を勤めている遠野市立博物館や遠野市の取り組み・事例を通して、地元の文化や歴史を観光・



地域おこし・教育など様々な方面に活用するためにどのような取り組みが必要なのか、そしてそれらが地域に何をもたらすのかを講演していただいた。そして、それらの取り組みを踏まえた上で、当館の事業に対しての評価をしていただき、さらに、今後この事業を継続・発展させるための示唆に富んだ提言をしていただいた。

## ②博物館と周辺地域機関との連携事業（CD作成、音楽発表会・絵画展の実施）

### <全体のコンセプト>

地域の歴史・文化をより身近なものとして感じてもらえるように、さらにこの事業を周知するための方策として実施した。各事業の目的は下記の通りである。

- 絵画展（地域の文化財に触れ、親しむ）
- CD作成（地域との連携）
- 音楽発表会（地域の文化の伝承と創造）

### <絵画展「真澄の見た山吹の里を描く」の開催>

菅江真澄の見た江戸時代後期の金足地区を迫体験しながら、地域文化の掘り起こしと地域の文化財に親しんでもらうことを目的に実施した。旧奈良家住宅（秋田市金足小泉）と三浦家住宅（通称：三浦館・秋田市金足黒川。以下、三浦館）の2つの国指定重要文化財のいずれかを対象にした絵画であることを応募条件とした。

絵画の応募に際して、三浦館保存会の協力の下に普段一般公開されていない三浦館の写生会を11月3日（祝・土）・4日（日）の2日間開催し、その時制作した作品を応募していただいた。博物館周辺の3つの小学校（金足西小学校・金足東小学校・下新城小学校）の児童の作品29点と、一般市民の公募による作品31点とあわせて60点の応募があった。

### <CD作成>

当館職員の作詞による「かなせの里」に、専門部会の委員が作曲をしてオリジナル曲を完成させた。CDの構成は、この歌と地域で親しまれている「どじょっこふなっこ」、演奏主体の一つである金足西小学校で制作された「ぼくらのドリームランド」の三曲を中心にした。合唱は金足西小学校音楽部と地域住民で構成する「どじょっこふなっこの歌を楽しむ会」とに依頼した。

また、菅江真澄の『軒の山吹』をもとにして作成した朗読劇「軒の山吹」もCDに収録することとした。

### <音楽発表会の開催>

CD収録の中心となった金足西小学校音楽部のコンサートを当館で開催し、その場をオリジナル曲「かなせの里」の発表会として今回の事業の周知も行った。金足西小学校は「どじょっこふなっこ」の発祥地としての活動をしており、金足西小学校音楽部は「どじょっこふなっこ」を歌い継いでいる。こうした取り組みは地域住民にも周知のことであり、オリジナル曲「かなせの里」をお披露目するには絶好の場であった。

## (2) 地域との連携について

この事業を周知し、地域の学校・関係諸機関の方に協力体制を取っていただけるように、博物館周辺の小・中・高等学校長、地区の振興会長、連合会長、三浦館保存会、小泉潟パークセンターにお願いして総合打ち合わせ会議を立ち上げた。

そこで、当館で作成しようとしたリーフレット・すごろく・CDなどについてより実際に即した意見をいただけるよう、それぞれのねらいに即した助言をいただける専門委員の選出をお願いした。また、当館で推進しようとした関連事業についても助言をいただいた。

専門委員の方からは、こちらの予想以上に的確な助言をいただくことができ、またモニタリングをした上ですごろくの作成に当たることができた点は非常に有意義であった。

一方、専門委員の方から「勤務している地域の歴史や文化、菅江真澄と地元とのかかわりについて認識を新たにすることができ、非常に有意義であった」という意見をいただくことができ、相乗効果があったことも確認できた。

振り返ってみると博物館とその周辺の学校との連携が主となったが、学校の児童・生徒を取り込んだことで、「自分の子供・孫が博物館で何かやる」という、いつもとは違った形で周辺の住民の方に博物館を利用していただき、今後の連携の在り方を考える上で、大きなヒントにもなった。

## (3) 成果物について

成果物は、次のとおりである。

### ①リーフレット「山吹の里・金足をたずねて」

A3版2つ折り、4色刷、20,000部。教育関係機関・博物館・金足地区小中学校・金足地区住民に加え、継続的に一般来館者にも普及用の資料として配付する予定である。

### ②「菅江真澄の旅すごろく」の作成

B2版、4色刷、800部。教育関係機関・博物館・金足地区小中学校・金足地区住民に配布し、単なる普及にとどまらず、郷土学習にも活用していただけるようにした。

### ③歌「かなせの里」の作詞・作曲およびCD作成

約25分、800部。教育関係機関・博物館・金足地区小中学校・金足地区住民に配布し、普及につとめることはもちろん、歌い継いでもらえるようにしていく。

### ④事業告知板の作成・設置

板面寸法 90 cm×180 cm、デラニウム板。14枚。

当事業の概要と実施する行事を広報するために、博物館近隣の道路脇・小学校・郵便局・JRの駅など人の集まるところに設置。

以上の成果物は、「菅江真澄」・「軒の山吹」・「かなせの里」をキーワードに、子供から大人まで幅広い年齢層に当館の事業を知ってもらう点から大いに役立つものがで



きたと考えている。今後は、この成果物を直接・間接的に活用し、地域の協力を得ながら当事業を継続・発展させるための方策・事業を考え、それを実施していく予定である。

#### （４）参加者の反応

リーフレット・すごろく・ＣＤについては、今後、配布先からの反応をまたなければならない。

絵画展の応募者からは、普段一般公開されていない三浦館を見学でき、さらにそこで写生までできたことは大変有意義であったという声をいただいた。また、絵画展の見学者からは、「地元の小学生の絵を博物館で展示するという取り組みは素晴らしい」とほめていただいた。

音楽発表会の場合、参加者からは「こういうコンサートを恒例にして欲しい」という声が寄せられ、発表した金足西小学校音楽部からは「また博物館でコンサートをしたい」との声があり概ね好評であったといえる。

講演会は、「なかなかおもしろかった」、「金足地区の歴史・文化・自然の有効活用について考えさせられた」などの声があり、開催の目的は達せられたと考える。

#### （５）芸術拠点形成事業を実施したことによる効果

リーフレット・すごろく・ＣＤ・事業告知板を作成することにより、地域の学校・地域住民に事業の紹介がスムーズに出来た。その結果、「菅江真澄」とそれをもとにした当館の活動にある程度の理解を得られ、博物館に対する注目を高めることにもつながり、今後の博物館と地域との連携の足がかりの一つとなる事業にすることが出来た。

また、音楽発表会と絵画展のように、今後恒例のイベント・行事になる可能性のある事業を展開できたことは大きな成果であったと言える。

今後は、この事業を通して得られた成果を継続・発展させる方策・事業を考え、それらを実現することで、博物館のある金足地区が「ミュージアムタウン」と呼ぶにふさわしい地域になるよう、一層地域と博物館の連携を強化していきたい。

①

国の「ミュージアムタウン構想」

全国51事業を採択

県立近代  
美術館など

**本県からは3事業**

[illegible]

文化庁は「地域文化の中核として博物館や美術館の果たす役割は大きい。文化的拠点になるよう支援したい」と話している。

[illegible]

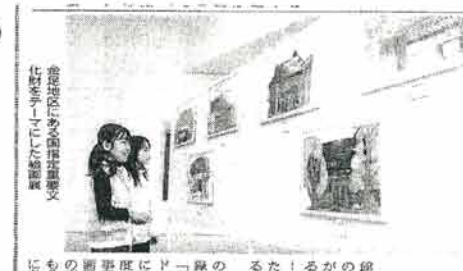
社說

## 芸術拠点形成事業

情報発信し地域と共に

[illegible][illegible]

③



地域の文化財描く

[illegible]

④

自然と文化生かそう

用 員 40人、まちづくり学5



TEL 018-888-1870  
FAX 018-823-1780

- テレビ、関連誌等 なし